特集

世界が注目する「シンガポールの公教育」

～高い学力を支える教育と、子どもたちの学校生活～

国際的な学力調査で常に高い評価を受け、世界各国から教育関係者が視察に訪れるシンガポール。資源に恵まれない小さな国が国際社会の中で存在感を発揮していくためには人材の育成が不可欠で、教育が国家の発展を支える重要な柱として位置付けられています。では、シンガポールの学校ではどのような教育が行われているのでしょうか。

Springではこれまで54回にわたり「シンガポール公立学校の広場」として、シンガポールの公立校をさまざまな角度から紹介してきました。今回は「シンガポールの教育の特徴」と「子どもたちの学校生活」を改めて振り返ります。



過去に掲載した「シンガポール公立学校の広場」はこちら

※過去の記事は、取材時点での情報です。最新情報は関係各所へご確認ください。

世界トップレベルの学力を誇るシンガポール



2025年に実施された調査では、シンガポールの15歳の生徒が、数学的リテラシー563点、読解力535点、科学的リテラシー560点を獲得しました。参加した国・地域の中で、数学は2位、読解力は1位、科学は2位。3分野すべてで世界トップクラスの成績を収めています。

PISA 2025の3分野 TOP5

順位	科学的コンピテンシー	読解力	数学的リテラシー
1	北京・上海・江蘇・浙江	シンガポール	北京・上海・江蘇・浙江
2	シンガポール	北京・上海・江蘇・浙江	シンガポール
3	マカオ	台湾	マカオ
4	台湾	日本	台湾
5	日本	マカオ	日本



特に数学はOECD平均の463点を100点上回り、科学もOECD平均の482点に対して560点と、大きな差を示しました。シンガポールの教育が世界から注目される理由の一つが、こうした優れた学力です。

1 一日の始まりは、国旗掲揚と国歌斉唱から



シンガポールの公立小学校では、一日の始まりに、日本の学校とは少し異なる光景が見られます。

第3回「公立小学校での朝の風景」

第27回「毎朝の国歌斉唱と『国民の誓い』」

登校した子どもたちはホールに集まり、国旗掲揚と国歌斉唱を行います。国歌「マジュラ・シンガプーラ（進め、シンガポール）」はマレー語で歌われます。その後、右手を胸に当てて唱えるのが、英語で書かれた「国民の誓い」です。その内容は、人種、言語、宗教にかかわらず一つの国民として、正義と平等に基づく民主国家を築き、国の幸福と繁栄、そして発展を目指すというもの。



この誓いが作られた背景には、シンガポールの歴史があります。民族間の争いが治安の悪化を招いた経験を経て、多民族が平和に共存することへの願いを込め、1966年に教育省の主導で作成されました。

多民族国家であるシンガポールでは、異なる文化や宗教を持つ人々がともに暮らしています。そうした国において、子どもたちが毎朝、国民としての誓いを唱えることには大きな意味があります。民族や言語、宗教の違いを超えて、一つの国民として共に歩むという意識を、学校生活の中で自然に身に付けていくのです。



2 制服や髪型にも学校の決まりがある



学校生活の中で、日本との違いが分かりやすいものの一つが制服です。

第2回「現地小学校の登校スタイル」

各校には制服があり、デザインは学校によって異なります。体育の授業がある日は体操着で登校します。靴や靴下にも決まりがあり、髪型についても校則で定められています。



当時のコラムで紹介した学校では、男子は襟や耳に髪が掛からない長さ、女子は髪を白、紺、黒のいずれかのゴムで結び、前髪が目に掛からないようにするなど、細かな規定が設けられていました。服装や髪型が細かく決められているため、毎日の服装選びに悩まなくて済むという保護者にとっての利点にも触れています。



3



休み時間は、食事も楽しみの一つ

学校生活の楽しみといえば、休み時間。シンガポールの学校では、日本の小学校とは異なる休み時間の過ごし方をしているようです。

第5回
「公立小学校の休み時間」

コラムで取り上げた学校では、日本のように授業と授業の間に休み時間を設けるのではなく、30分間の「リセスタイム」と呼ばれる休憩時間がありました。学年ごとに時間帯が分けられ、子どもたちはこの時間に食堂で軽食を食べたり、外で遊んだりして過ごします。

興味深いのは、学校の食堂に並ぶメニューです。子どもたちは、お弁当を持参することもできますが、食堂で販売されている食べ物を自分で購入することもできます。スナックや果物、サンドイッチ、チキンライスなど、さまざまなメニューが用意されています。さらに、食堂にはハラル食のマレー料理、中国料理、インド料理、ウェスタンフードなど、多彩な食文化を反映した料理が並びます。さまざまな民族が暮らすシンガポールらしい光景です。



また、さまざまな民族の子どもたちが同じテーブルを囲み、それぞれの食文化を共有することにも意味があります。普段は食べる機会のない料理を知ったり、友人が選んだ食べ物に興味を持ったりすることもあるでしょう。学校の食堂という身近な場所にも、多民族国家ならではの特徴が表れているのです。





4



シンガポールの「二言語教育」

シンガポールの教育を語るうえで欠かせないのが、英語と母語を学ぶ「二言語教育」です。公立小学校では、英語を基本言語として教科を学びます。それと同時に、中国語（北京語）、マレー語、タミル語の3言語から母語科目を選択して学習します。



このように、英語を共通の言語として学びながら、母語も大切にするのがシンガポールの教育の特徴です。しかし、二つの言語を習得することは、決して簡単ではありません。家庭でも英語だけを使う家庭が増え、母語の読み書きだけでなく、話すことも英語の方が楽だと感じる人が増えているという現状です。



第6回
「母語の授業」



家庭で母語を使う機会が少なくなると、学校で学んだ内容を家庭で復習したり、保護者が宿題を手伝ったりすることも難しくなります。実際に、子どもの母語の宿題を教えられないという理由で、塾に通わせる家庭も一般的だと紹介されており、こうした状況は、二言語教育の難しさを表しています。

英語が日常生活に浸透する中で、母語をどのように次の世代へ伝えていくか。これはシンガポールの多民族社会にとって大切な課題の一つです。

5



卒業は、思い切り楽しむ門出のお祝い

学校生活の大きな節目といえば卒業です。日本では、卒業証書を受け取り、先生や保護者、友人たちと別れを惜しむ、厳かな卒業式が一般的です。シンガポールの学校では、卒業を一つの門出として思い切り祝う姿勢が見られます。校長先生から卒業証書を受け取るセレモニーだけでなく、学校ごとにさまざまなイベントが企画されます。

第20回
「ユニークで楽しい！シンガポールの「卒業」」

例えば、フェイスペインティングを楽しんだり、フォトブースが並ぶ中で友人と思い思いのポーズで記念撮影をしたり。まるでお祭りのような雰囲気の中で卒業を祝う学校もあるようです。また、学校によっては、講堂にきれいにセッティングされたテーブルを用意し、6年生と先生方が英国式の「ハイ・ティー」を楽しむこともあります。夜には、親子で出席する卒業ディナーを開催する学校も紹介されています。





卒業を迎える子どもたちにとって、小学校で過ごした日々はかけがえのない思い出です。友人と一緒に過ごす最後の時間を、楽しいイベントとして共有することにも大きな意味があるのでしょう。日本の卒業式とは異なる、明るく華やかな祝い方。こうした行事にも、シンガポールの学校文化の一面が表れています。

6



学校の日常から見える、多民族社会の姿

ここまで紹介してきた学校生活には、シンガポールという国の特徴が随所に表れています。毎朝の国旗掲揚と国歌斉唱、国民の誓い。食堂に並ぶ多彩な料理。英語と母語を学ぶ二言語教育。そして、卒業という節目を仲間と祝う行事。これらは一見すると、それぞれ異なる学校生活の場面です。しかし、共通しているのは、多様な文化や背景を持つ人々が共に暮らす社会の中で、子どもたちが日々さまざまな経験を重ねているということです。

特に、食堂の風景はシンガポールらしさを身近に感じられるものです。中国料理、マレー料理、インド料理など、異なる食文化が同じ場所に並び、子どもたちは自分の好きなものを選びます。友人と一緒に食事をする中で、自然に異なる文化に触れることができます。また、母語の授業では、自分たちの文化的な背景に目を向ける機会があります。一方、毎朝の国歌斉唱や国民の誓いでは、民族や言語の違いを超えて、一つの国民として共に歩むという意識が示されます。

異なる文化を大切にしながら、共通の社会を築いていく。シンガポールの学校生活には、そうした多民族国家ならではの考え方が反映されています。



日常の風景から見えてくる教育

PISA 2025で世界トップクラスの学力を示したシンガポール。その教育を支える学校生活には、国旗掲揚や国歌斉唱、二言語教育、食堂での交流、卒業行事など、さまざまな特徴があります。今回取り上げたのは、54回にわたる連載の中から選んだ、学校の日常に関するエピソードです。高い学力という数字だけでは見えてこない、子どもたちの学校生活。そこには、シンガポールという国の文化や社会のあり方が映し出されています。

日本とは異なる環境の中で、子どもたちがどのように学び、友人と過ごし、成長していくのか。シンガポールの公立校を知ることは、教育のあり方を考えるうえでも、新たな視点を与えてくれるのではないでしょうか。